

出版の現状と今後

2020-02-03

MG6256 堀江明日香

目次

1. 出版物の定義
2. 出版業界の現状
3. 出版の問題点
4. 出版の今後

謝辞

参考文献

まえがき

近年、紙媒体の書籍の売上は低下し、出版社、印刷会社、書店など多くの業界に影響を与え、衰退傾向にある。この論文では、業界の現状と問題点から衰退傾向にある原因を考える。その結果から今後出版業界がどうなっていくのかについて論じる。

1. 出版物の定義

書籍の定義は次の4条件を満たしていることである[14].

- 文字, 図録, 写真などについて, 伝達を目的として表現した内容があること.
- 内容が紙葉に印刷されていること.
- 紙葉がバラバラにならないようひとまとめにされ, 製本によって中身と表紙が揃っていること.
- ある程度の分量があること.

雑誌の定義

雑誌とは, 一定の編集方針のもとに種々の原稿を集め, ふつう週以上の間隔で定期的に刊行される, 原則として仮綴じ形態の出版物[14].

雑誌の区分

雑誌のうち, 週1回定期刊行される雑誌を週刊誌, 週刊誌以外の雑誌(旬刊・月2回刊・隔週刊・月刊・隔月間・季刊・不定期刊誌及びムック・雑誌扱いコミックス本)を月刊誌とする[16].

2. 出版の現状

出版業界には急激な縮小傾向がある（図1）。書籍・雑誌の推定販売金額は、

ピーク 1996 年の 26,564 億円からマイナスが続く。2018年は推定販売金額が 12,921 億円であり、1996 年と比べると 2/3 以下である。

対前年増減率は 14 年連続マイナスと厳しい状況が続いている。2018 年総販売額 12,921 億円の内訳は、書籍は 54.1 %で 6,991 億円、雑誌は 45.9 %で 5,930 億円。雑誌の内訳は、月刊誌は 37.5 %で 4,844 億円、週刊誌は 8.4 %で 1,086 億円である。書籍も雑誌も減少が続くが、対前年増減率をみると、ここ 5 年間で書籍が 0.7 ~ 4.0 %減に対し、雑誌は 5.0 ~ 10.8 %減。特に 2017 年 10.8 %減、2018 年 9.4 %減と急激に減少している。

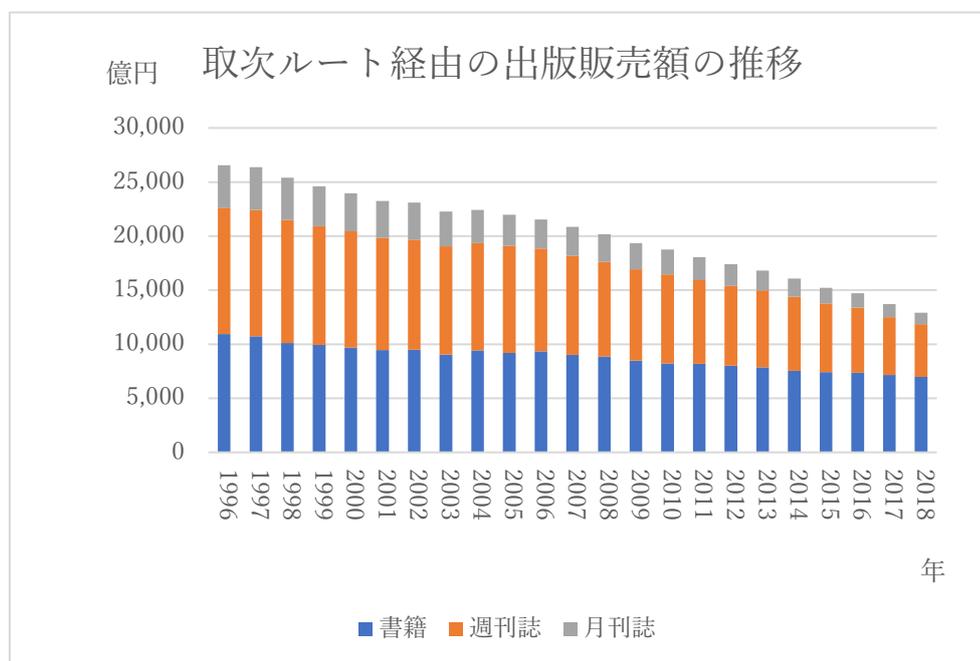


図1 取次ルート経由の出版販売額の推移[16]

月刊誌をジャンル別にみると、月間定期誌、ムック、コミックス（単行本）ともに減少している[16]。コミックスは 2018 年上半期約 15 %減と激減していたが、4 月に海賊版サイト”漫画村”が閉鎖し、4 月以降講談社や集英社など大手出版社が主要レーベルの新刊の価格を順次値上げした[16]。また、1 話ずつ読ませる“話売り”や無料試し読みなど、集客のためのキャンペーンを積極的に行ったり、映画化作品のヒットが続くなど下半期に上向いて、減少幅は縮小した。



図2 ムック推定販売金額の推移[6]

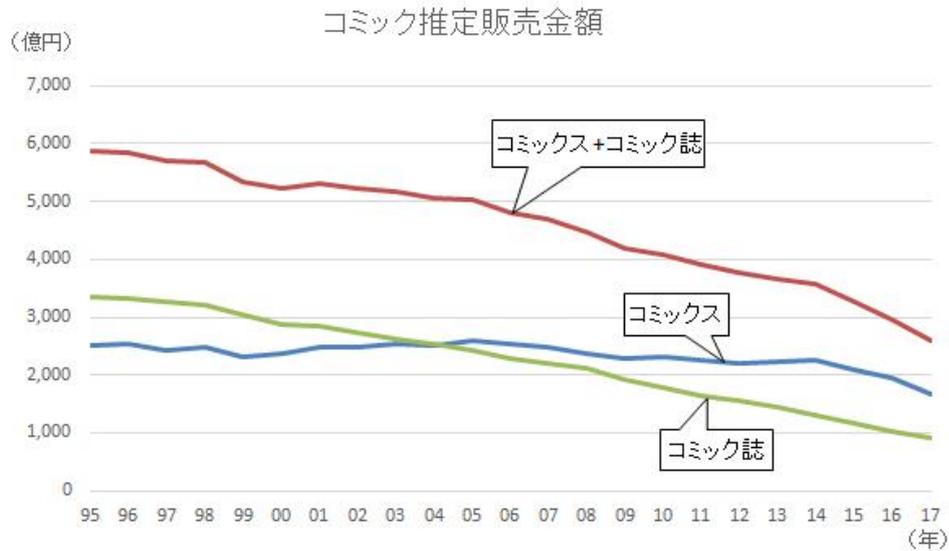


図3 コミック推定販売金額の推移[6]

書籍は、ベストセラー商品の有無によって年間の販売実績の変動は大きい[16]。1996年10,931億円から2018年は6,991億円と縮小している[16]。対前年増減率の増減幅は雑誌よりも小さい。2018年は前年比2.3%減と減少幅は縮まったが冊数ベースでみると3.4%減と金額以上に落ち込みが大きい。文庫本の大幅減が毎年続いている。新刊点数を抑制し、効率的な販売を模索する文庫出版社が増えているが、年々文庫本離れが進んでいる。定番人気作家作品や映画作品以外は不振という状況が続いた。

一方で、児童書やビジネス書が微増している[16]。また、プロモーションを強化した書籍が爆発的に売れる傾向がある。特にテレビの情報番組の訴求力は高い。

電子書籍市場は2014年1,114億円から2018年は2,479億円と約2.2倍になり、5年間で大きく成長した[16]。毎年販売額は増加しているが、対前年増減率でみると増加幅は減少している。2018年電子書籍市場の内訳は、電子コミックが1,965億円、電子書籍が321億円、電子雑誌が193億円で電子コミックのシェアが79.3%である。対前年増減率は、電子コミックが14.8%、電子書籍が10.7%

増加したが、電子雑誌が 9.8 %減となった。成長を続けていた電子雑誌は 2018 年に初めて前年割れとなった。

紙の出版市場と電子出版市場を合算すると、1兆5,400 億円、前年比 3.2 %減である[16]。紙だけの市場は同 5.7 %減であり、落ち込み幅は 2.5 %抑えられた。

3. 出版の問題点

輸配送問題が深刻化している。雑誌市場減少に伴う業量の減少、運賃の値上げ、ドライバー不足が起こっている。2018年には取次会社が雑誌の運賃負担の要請や書籍正味の改定を出版社に求め、本格的に交渉を開始した[16]。

雑誌の広告収入も低下している[16]。読者が無料のWeb情報に慣れ、雑誌を購読するハードルが年々高くなっている[6]。大手出版社のコミックス誌や、若年層向けファッション誌などで一部売り上げを伸ばしている雑誌はあるが、総じて厳しい[16]。付録付き雑誌や女性向け人気アイドル・アニメが登場した号など単号売れの傾向が顕著である[6][16]。

また、書籍や雑誌の返品率の問題もあげられる。近年、書籍の返品率は少し下がってはいるが、2018年で36.3%、雑誌は43.7%である。

また、出版社のコスト見直しのなかで、出版物に売上スリップを入れずに出荷するスリップレスの動きが進み、約40社の出版社が導入している。

4. 出版の今後

出版業界の現状をみると、紙の書籍や雑誌の売上はほとんどのジャンルが年々減少していて、今後成長していくことは難しい。

雑誌では、売上が増加しているものが付録付き雑誌や人気アイドルが登場している号の単号の売上が顕著な点から、情報伝達としての雑誌の需要がなくなってきていることがわかる。このことから、情報伝達手段として Web や動画が主流となり、雑誌は休刊雑誌が増え、一部を除いて無くなるのではないかと考える。

コミックスは、紙のコミックスの売上が減少する一方で電子コミックスの売上が増加している。現在の電子コミックスは紙のコミックスの約 10 %だが、スマートフォンとの相性がよく、年々電子コミックスの市場が拡大していることから、電子コミックスへの以降が進んでいくと考える。

書籍は電子コミックスのように飛躍的な伸長は見られないが、少しずつ市場が拡大していることや、昔の刊行物を電子版で復刻する取り組みを行っている点からこれから需要が高まり、電子書籍に移行していくのではないかと考える。

また 2019 年 1 月, Amazon が取次を通さず直接仕入れる“買い切り制度”を導入すると発表した[17]。この制度は、出版業界が抱える運送の問題や返品率の問題を解決することが可能であり、今後紙の書籍や雑誌の販売は、輸配送や販売は流通販売に優れた業界に移り、取次会社や書店は衰退していくのではないかと考える。

一方で、大手印刷会社では、書店をグループ傘下にして、さらに出版社と業務提携を結びデータを集め、AI による書籍需要予測を試みている[18]。現在は発売後の需要予測だが、今後発売後の需要予測精度を高めていくとともに、発売前の需要予測が高い精度で可能になった場合、出版業界が抱える問題の解決手段となる可能性があると考えられる。

謝辞

参考文献

- [1] 湯浅俊彦, 電子出版学入門：出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ
＜改訂3版＞, 出版メディアパル, 2013-03-10
- [2] 柳本浩市, 共創がメディアを変える：コミュニケーションで紡ぐ新しい電子
出版, 中村堂, 2014-12-10
- [3] 沢辺均, 電子書籍の制作と販売：出版社は、どう作り、どう売るのが、ポッ
ト出版, 2018-03-30
- [4] 野口武悟, 電子書籍アクセシビリティの研究：視覚障害者等への対応からユ
ニバーサルデザインへ
- [5] 日本の出版統計, 公益団法人全国出版協会, 閲覧日 2018-09-19,
<https://www.ajpea.or.jp/information/20180226/index.html>
- [6] 日本の出版統計, 公益団法人全国出版協会, 閲覧日 2019-09-12,
<https://www.ajpea.or.jp/statistics/index.html>
- [7] 平成 29 年度版 情報通信白書, 総務省, 閲覧日 2018-09-25,
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc262110.html>
- [8] 大河原 克行, 絶版本も買える。必要なときだけ製本するアマゾンの「プリ
ント・オン・デマンド」の仕組み, 2018-09-13, 閲覧日 2018-09-24,
<https://pc.watch.impress.co.jp/docs/news/1142921.html>
- [9] 小田光雄, 出版状況クロニクル, 論創社, 2009-05-15
- [10] 小田光雄, 出版状況クロニクルII, 論創社, 2010-07-15
- [11] 小田光雄, 出版状況クロニクルIII, 論創社, 2012-03-25
- [12] 小田光雄, 出版状況クロニクルIV, 論創社, 2016-05-20
- [13] 小田光雄, 出版状況クロニクルV, 論創社, 2018-05-20
- [14] 出版辞典, 出版ニュース社, 1971 年刊行
- [15] 「雑誌」の定義と出版統計, 公益団法人全国出版協会 コラム, 2006-09-11
- [16] 堀川嘉一, 出版指標 年報 2019 年度版, 公益社団法人 全国出版協会 出
版科学研究所, 2019-04-25

- [17] 山口敦雄, Amazon「買い切り方式」、出版業界に波紋 年内にも導入, 毎日新聞, 2019-3-18, 東京朝刊
- [18] 人工知能は「出版不況」を救うか? AIによる書籍需要予測という試み, 現代ビジネス編集部, 2018-03-26, 閲覧日 2020-02-03,
<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/54910>